

事例6

< 事例概要 >

- ・ 外傷性クモ膜下出血の 80 歳代の患者。死亡時画像診断（Ai） 有、解剖無。
- ・ 経口摂取困難と判断され、栄養剤投与目的に胃管を挿入した。BMI 21.1。
- ・ 嚥下機能低下、意思疎通困難、挿入困難歴あり。
- ・ 看護師がスタイレット付き胃管を挿入したが、気泡音が聴取されず、薄い鮮血色の液体が吸引されたため抜去し、2 回目で挿入した。翌日、経口摂取再開となり一旦抜去したが、経口摂取できず、看護師が再挿入した。2 回目で挿入され、看護師 2 名で気泡音を確認、黄色～こげ茶色の液体が吸引された。1 回目の栄養剤を投与後、口腔内分泌物の増加、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）低下、血圧低下、不整脈を認めた。2 回目の栄養剤を投与後、さらに呼吸状態が悪化した。X 線で胃管が右胸腔内に挿入されていることが確認され、人工呼吸器管理などを行ったが、2 週間後に死亡した。